

使用済製品等のリユース促進事業研究会（第15回）
議事概要

1. 開催概要

(1) 日時・場所

日時：平成26年11月20日（木） 10:00～12:15

場所：TKP東京駅前カンファレンスセンター ホール4A

(2) 議事

1) 平成25年度事業の成果の取りまとめについて

2) 平成26年度の実施内容について

- 1 市町村における使用済製品リユースモデル事業の概要
- 2 モデル事業のフォローアップ調査・モデル事業の取りまとめ
- 3 中古衣類を対象とした海外でのリユース実態調査
- 4 インターネットオークション・宅配リユースに関する実態調査

3) 今後のスケジュール

(3) 出席委員

三橋規宏（座長）、加藤正、黒田武志、佐々木五郎、佐々木創、杉研也、杉本亨、手塚一郎、長沢伸也、波多部彰、服部美佐子、藤田惇、和田由貴（以上、敬称略）

(4) 欠席委員

小野田弘士、田崎智宏（以上、敬称略）

(5) モデル事業実施地域

川島元堂、吉澤泰延、境三喜夫（八王子市）、中川公嗣（逗子市）、鳥居佑多（武豊町）、井伊敏（株式会社エイゼン モデル事業協力企業）

(6) ヒアリング対象者

飯塚努（株式会社原宿シカゴ）

(7) 配布資料

資料1 研究会名簿

資料2 平成25年度使用済製品等のリユース促進事業 報告書（概要版）

- 資料3 平成26年度使用済製品等のリユース促進事業の概要
- 1 平成26年度 環境省リユース促進事業の全体像
 - 2 平成26年度 環境省リユース促進事業の実施計画（案）
- 資料4 市町村における使用済製品リユースモデル事業について（事業計画）
- 1 東京都八王子市
 - 2 神奈川県逗子市
 - 3 愛知県武豊町
- 資料5 株式会社原宿シカゴ（衣類リユース） ヒアリング資料
- 資料6 ヤフー株式会社（インターネットオークション） ヒアリング資料
- 資料7 リネットジャパングループ株式会社（宅配リユース） ヒアリング資料
- 資料8 今後のスケジュール

（8）その他

会議は公開で行われた。

2．議事概要

（1）開催

【事務局（環境省 庄子室長）】

- ・ 委員の皆様方は朝早くからお忙しいところ、ご参加いただき、御礼申し上げます。今年度のリユース促進事業研究会は合計3回の予定である。
- ・ 今年度も市町村等とのモデル事業を引き続き実施させていただく。八王子市、逗子市、武豊町の3市町には本日事業計画をご発表いただくので、委員の皆様にはモデル事業の実施に向けてご助言をいただければ。また、市町村等とのモデル事業は4年目ということで、今年度は自治体によるリユース実施のマニュアルのようなものを取りまとめ、全国の自治体に展開していきたいと考えている。
- ・ また、昨年度の研究会にてご指摘いただいた中古衣類は海外への輸出実態・リユース実態について、調査させていただく予定である。
- ・ また、最近のビジネスモデルとして出てきた宅配リユース、インターネットオークションに関しても、実態の調査を進めさせていただく予定である。
- ・ 委員の皆様方にはお忙しいところ申し訳ないが、リユースの促進に向けて、本研究会にてご意見を頂戴出来れば幸いである。

（2）平成25年度事業の成果の取りまとめについて

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山）】

（資料2に基づき、説明が行われた。）

(3) 平成 26 年度の実施内容について

1) 平成 26 年度使用済製品等のリユース促進事業の概要

【事務局（環境省 谷貝室長補佐）】

（資料 3 - 1 に基づき、説明が行われた。）

【波多部委員】

- ・ 事務者ベースの意見交換会と有識者ベースの分科会では、議論にズレが生じる可能性があるのではないか。すり合わせは予定しているか、どのように行う予定なのか。

【事務局（環境省 谷貝室長補佐）】

- ・ 本研究会の場で、意見交換会・分科会の報告を行う予定であり、その場でのすり合わせを想定している。また、分科会での検討の際にも、事前にリユース事業者の方へのヒアリングなどを行う、情報共有していく予定である。

2) 市町村における使用済製品リユース

【川島（八王子市）】

（資料 4 - 1 に基づき、説明が行われた。）

【中川（逗子市）】

（資料 4 - 2 に基づき、説明が行われた。）

【鳥居（武豊町）】

（資料 4 - 3 に基づき、説明が行われた。）

【波多部委員】

- ・ 各モデル事業とも、地域に根付いたリユースを推進していこうという計画・取組となっている。よいモデル事業になるのではないか。
- ・ 各市町にお伺いしたい。環境教育等促進法が施行され、小学生等にも 3R に関して学ぶ場、教育の場が設けられるようになっている。リユースについては、小学生等への啓発が重要と考えているが、各市町では、どのような啓発の取組を行っているのか。

【境（八王子市）】

- ・ 八王子市では、環境学習の一環として小学校 4 年生を対象に職員が学校に出向いて講義を行う「出前講座」を実施している。
- ・ 出前講座の他にも、ごみ収集車を使ったごみの投入体験や分別体験、ごみ処理場の見学など、環境学習を行っている。このような取組みは、今後も充実させたいと考えている。
- ・ 小学生等の子どもへの啓発は、子どもから親へ、という効果も期待される。今回のモデル事業では、親の世代になる一歩手前、地域の大学生を啓発するということに繋がると考え

ている。小学生等への啓発だけではなくモデル事業を行うことで、地域全体でリユースに対する意識を醸成したいという思いで取り組んでいる。

【中川（逗子市）】

- ・ 環境教育の一環として小学校４年生を対象に環境クリーンセンターの見学や座学での講義を行っている。他にも「分別ゲーム」という名称で、ごみ分別を楽しみながら学んでいただいている。これらの取組みの結果、親よりも子どもの方がごみ分別に詳しくなり、親が子どもに分別方法を教わるといったこともあると聞いている。環境教育を通して、分別意識を含めた、啓発を図っていきたい。

【鳥居（武豊町）】

- ・ 環境教育の一環として小学校４年生を対象に出前講座を行っており、ごみ分別方法やごみに関するクイズなどを出題している。
- ・ 他にも、資源回収拠点であるエコ・ステーションにて、中学生の職場体験の受け入れており、中学生に資源回収・分別を体験してもらっている。今後は、リユースステーションでも、中学生が職場体験を受け入れることで、リユースの意識の醸成を図っていきたい。

【佐々木五郎委員】

- ・ 八王子市について、フロー中にリユースショップへの販売という流れがある。事業の目的は学生から回収した品物の販売なのか、学生から学生へと無料で引き渡していくことなのか、どちらが主であるのか。
- ・ 例えば、売れる製品は、リユースショップに優先的にいってしまうのか。
- ・ また、昨年度のリユース市における「リユースショップに売れるもの」と「製品として使えるもの」と「ごみとして処分するもの」の比率・割合が分かれば教えていただきたい。
- ・ 逗子市について、ちらしに夏物衣類は対象外であると書いてあるが、中古衣類の主な輸出先は東南アジアであり、夏物の需要がメインであると聞く。夏物を除いた理由はなぜか教えていただきたい。
- ・ 武豊町について、リユースステーションの事業効果を試算しているが、スタッフを新たに雇用することでコストがかかるはずである。このコストを入れるとマイナスになると思われるが、庁内でどのように合意形成されたのか。その経緯を教えていただきたい。

【吉澤（八王子市）】

- ・ リユース市の主目的は「学生への無償での引き渡し」である。ただし、将来的なリユースの在り方としては、売れるものはリユースショップへ、使えるものはリユース市へというようなことを考えている。リユースショップでは取り扱えないようなリユース品を、リユース市でうまく循環させたいと考えている。
- ・ また、リユース品や処理する品物の比率については、昨年度の事業では取扱量が少なく、効果測定は難しかったため、比率等は出していない。
- ・ 最終的に処分するものとして残ったリユース品は、市が引き取って八王子市のリサイクル協会に対して、販売してリサイクルを行った。

【川島（八王子市）】

- ・ 補足をさせていただく。リユース市の開催に伴い、一部の商品はどうしても引き渡しが出来ずに廃棄物として処理費用がかかってしまう。その処理費を捻出して持続的に取組を行っていくためにも、リユースショップに対して、一部の商品を売却するという事を考えている。
- ・ また、今年度は、回収したリユース品について、リユースショップに見積りを依頼することで、リユース市を通して「売れないが使えるもの」がどれくらいリユースできたかを調査できたらと考えている。

【佐々木創委員】

- ・ 本研究会では、「リユースショップで売れるもの」と「リユースショップでは取り扱わないがリユース品として使えるもの」のギャップをどのように埋めていくのかということが課題になっていた。
- ・ 昨年度のリユース市では、大学生という属性のためかもしれないが、リユースショップでよく売れるメタルラックなどは残ってしまったのに対して、リユースショップが買い取らないような家具類は引き渡すことが出来た。
- ・ このような通常ではリユースショップでは引き渡すことが出来ないようなリユース品を、リユース市を通して循環させていくことが目的である。

【中川（逗子市）】

- ・ 常設している「エコ広場ずし」では、引き取る衣類が増えると置き場がなくなってしまうため、循環しづらい季節物ではない衣類は置かないようにしようと9月に決めたところであった。
- ・ ただし、今回はあくまでも単発イベントであるので、夏物を除くという条件は外させていただく予定である。

【鳥居（武豊町）】

- ・ 86万円の事業効果に対して、新たな人件費は66万円弱を想定しており、新たに人を雇ったとしてもプラスになるという試算になっている。
- ・ このような試算をもとに、財政部局と相談して、来年度の予算編成に組み込む方向ですんでいる。

【手塚委員】

- ・ 八王子市について、今年度の新たな取組としてリユースショップとの協力・連携について紹介頂いたが、その具体的な内容は決まっているのか。
- ・ 逗子市について、リユースの取組に長い歴史があるが、その歴史と今回のモデル事業を行うこととの関係を教えていただきたい。モデル事業を行うことは市のリユースの取組の集大成として位置づけられるのか、それとも新たな取組として行うものなのか。
- ・ 武豊町について、コスト計算は分かりやすく、企画書でこれだけ丁寧に説明すると予算を

つけやすいのではと思う。ただし、町の正式事業としてやる時、モデル事業としての支援がなくとも、事業費がプラスになる見込みはあるのか、教えていただきたい。

【藤田委員】

- ・ 心の狭い話になるかもしれないが、モデル事業の中で無料でリユース品を交換するような仕組みを促進することで、周辺のリユースショップのリユース品が売れなくなるのではないかと懸念している。
- ・ 当協会の会員からも、役所が税金を使ってリユースを斡旋してリユース品が無料でもらえるというような仕組みは、リユースショップにとって弊害が出てくる可能性があるのではないかという声が出ている。
- ・ また、リユース品を無料で市民が持っていくという仕組みは、「無料だから」という理由で引き取ったリユース品が大事に使われずにすぐ捨てられる可能性があるのではないか。

【川島（八王子市）】

- ・ リユースショップとの具体的な連携として、JRAA にリユースショップ紹介冊子作成に当たって掲載店舗のご紹介などで協力していただいている。
- ・ しかし、リユース市でどのくらいの量でどのようなものが集まってくるのか不透明な部分があるため、まだ具体的なリユース品の売却や点検についての打診は行っていない。現時点では、中央大学のゼミ生がリユース事業者に対してヒアリング調査を行うなど、情報収集を進めている。ものが集まってきた段階で適切なところに依頼したいと考えている。
- ・ 藤田委員のご懸念に関しては、既存の事業者に対してはリユースショップ紹介冊子を作成して、リユースショップの積極的な利用を後押ししたいと考えている。リユース市で学生に回るものとリユースショップが扱うものは異なるものになるのではと考えており、“売れないけれど、使えるもの”を循環させていければよいと考えている。

【杉委員】

- ・ 八王子市の事業に JRAA として協力している。補足させていただくと、自治体が無料でリユース品を斡旋するといった取組は、当協会のビジネスの競合になるとは全く考えていない。むしろ、リユースの認知度をあげていただく取組であるので喜んで協力したいと考えている。
- ・ また、八王子市のモデル事業を進めていく上で必要となるリユースに関するノウハウの提供についても可能な限り協力する。例えば、学生の場合はアルバイトやインターンなどといった形でノウハウを得ていただくこともできる。

【中川（逗子市）】

- ・ 古くから不用品交換掲示板等のリユースの取組を行っているとともに、市の協働事業提案制度の一環として、平成 24 年度から市民団体「逗子ゼロ・ウェイストの会」が、市役所 1 階に開設した「エコ広場ずし」にてリユースの関連活動を行っているところである。
- ・ 協働事業提案制度による市からの支援は 3 年間で終わるため、リユースの取組を発展させるとともに、中心部だけではなく、市内の様々な場所にリユースの拠点を作ることで活動

を展開させたいと考えている。

- ・ 既存の市内リユースショップとの関係について、エコ広場の会場にてリユース品を受け付ける段階でリユースショップを紹介するなど考えている。

【鳥居（武豊町）】

- ・ 来年度以降は、交換券の印刷費、その他の消耗品用などが必要になってくると考えているが、詳細は連携するエイゼンと詰めていきたいと考えている。リユース品の展示に必要なラックや棚などはリユース品も活用していきたいと考えている。
- ・ 武豊リユースパークの際に実施したアンケートによると、普段からリユースショップを活用している人の割合は少なく、町内でのリユースの認知度は低いと考えている。町が常設のリユース拠点を作ることで、リユース文化の振興につなげていきたい。リユース文化が高まっていく中で、町に現在はないリユースショップが町内に進出してくるといった形になるとよいと考えている。

【三橋座長】

- ・ 大学の中でのリユースといえば、大量に出る本のリユースもある。私は大学の図書館長を務めていた経験があるのだが、教官が退官される際にたくさんの蔵書を図書館に寄付される。図書館としては、その処理に困っているところであり、そのような場面でもリユースが役に立つかもしれない。

【川島（八王子市）】

- ・ 昨年度と異なる点の1つとして、取扱品目に書籍も扱うようになった点がある。
- ・ また、自宅に訪問しての回収だけではなく、本・衣類等は学生からの持ち込みも回収するという事も考えている。
- ・ また、将来的には佐々木委員以外の教官や大学事務の方にも参加して頂きながら、取組を広げていけるとよいと考えている。

3) モデル事業のフォローアップ調査・モデル事業の取りまとめについて

【事務局（三菱UFJ リサーチ&コンサルティング 小川）】

（資料3 - 2に基づき、説明が行われた。）

4) 中古衣類を対象とした海外でのリユース実態調査

【事務局（三菱UFJ リサーチ&コンサルティング 松岡）】

（資料3 - 2に基づき、説明が行われた。）

【飯塚（原宿シカゴ）】

（資料5に基づき、説明が行われた。）

【加藤委員】

- ・ 市川市では、古布は古紙収集事業者が引き取っているのだが、そのようなルートは一般的なのか。

【飯塚（原宿シカゴ）】

- ・ 古着の収集は古紙収集業者や一般廃棄物収集業者などが行っている場合が多い。収集した後に、古紙と古着を分けて、それぞれの事業者を引き渡すという形で流通している。

【服部委員】

- ・ 原宿シカゴが回収される衣料は主に自治体からという理解でよいか。また、中古衣類は無償で回収しているのか、有償で買い取っているのか。

【飯塚（原宿シカゴ）】

- ・ 当社は自治体経由の古着回収では後発にあたるが、全体の6割が自治体からとなっている。残りの4割は集団回収や店舗での回収となっている。
- ・ 古着の買い取り価格は、7,8年前までは低迷していたが、日本の古着の価値が海外で見直されて、相場が3倍以上になっている。円安が進んでいるので、もう少し買い取り価格が上昇するかもしれないと言われている。

【三橋座長】

- ・ 紹介いただいた古着の回収ボックスについて、日本にも同様なものはあるのか。

【飯塚（原宿シカゴ）】

- ・ 10年ほど前から郡山市のNPOが古着の回収ボックスを設置して古着回収に取り組んでいる。
- ・ また、郊外のスーパーの一部に鉄製の回収ボックスをおいて、古着と古紙を回収している。古着・古紙を投入すると割引券等が出てきて、そのスーパーで使えるといった方法で店舗と連携した回収ボックスの設置が増えてきている。

【長沢委員】

- ・ 日本の古着が海外で評価された理由はどこにあるのか。クール・ジャパンなどを通して日本のイメージがよくなったことも関係あるのか。
- ・ 古着の輸出は商社を介して行っている場合が多いのか、直接輸出している場合が多いのか、輸出する主体について教えていただきたい。

【飯塚（原宿シカゴ）】

- ・ クール・ジャパンなどの影響で日本のイメージがよくなったというよりは、日本の古着が他国の古着と比較してきれいなものが多いことが大きな要因である。
- ・ 海外のように破れたズボンや擦り切れた衣服を着ている人は日本にはいない。以前は購入してから3,4年してから古着となっていたが、ユニクロなどのファストファッションが出てきてから、春に販売されたものが秋には古着として出てきたりしており、洋服のライ

フサイクルが短くなってきている。ただし、他国の古着と比較して雑巾や着ることが出来ない衣服などの不純物が多いのが特徴である。

- ・ 大よその概況ではあるが、寄付のような形で海外に輸出されているものは数%と少ない。残りは事業者が輸出しており、当社を含めて一定の規模の事業者であれば、自前で輸出している。
- ・ 小規模な事業者は輸出商社を通して輸出を行っている。商社はいわゆる、大手の総合商社系ではなく、7割程度は古着に特化した専門商社、2～3割くらいは古紙の専門商社が古着も取り扱うといった形で輸出を行っていると考えられる。

5) インターネットオークション・宅配リユースに関する実態調査

【事務局（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 加山）】

（資料3 - 2に基づき、説明が行われた。）

【杉本委員】

（資料6に基づき、説明が行われた。）

【黒田委員】

（資料7に基づき、説明が行われた。）

【和田委員】

- ・ リユースを促進していく上で、利用者の利便性の向上は非常に重要だと思う。利用者の手続きや利用までのハードルを下げるような取組は大事である。
- ・ 宅配リユースを行っているブランディアでは、断捨離で有名なやましたひでこ氏とコラボしており、講演会のときに、断捨離ボックスとしてブランディアのあて先が入っている段ボールを資料と一緒に配っている。リユースしたくても、やり方が分からないという人が多い中で、ハードルを下げるためのよい方法であると思う。逗子市では講演会を行うという話ではあったが、自治体と一緒に協力して宅配リユースへと繋げていくということも考えられる。加えて、宅配リユース事業者と引っ越し業者が提携して、引っ越しの前に宅配リユースを活用してもらおうといった事業が出来るとよいのではないか。
- ・ ヤフオクは、10年以上利用しているが、昔に比べると安全性や利便性が向上していると感じる。しかし、多くの利用者は「何となく面倒」「詐欺にあったらどうしよう」といったイメージを持っており、ハードルを感じている。
- ・ 利用者のハードルを下げる1つの方法として、出品代行サービスがある。例えば、CERCLEという会社は、中古品の出品代行を行っている。箱で送った中古品を消費者に変わってオークションに出品し、手数料を得るサービスである。後発のサービスなので会員数は少ないが、出品代行サービスをヤフオクで公式に実施すると利用者が多くなるのではないかと考えている。
- ・ 宅配での買取もインターネットオークションも、リユースの裾野を広げる取り組みではないかと考えている。

【佐々木創委員】

- ・ 黒田委員にご質問である。昨年度の分科会にてリユースに関連した法的な環境の整理を行っており、引っ越し時の廃掃法の特例についても整理を行ったところである。資料に記載して頂いた、引越シーンにおける「不用品処分の緩和」とは、具体的にはどのような規制緩和をイメージしているのか。

【黒田委員】

- ・ 私も詳細は把握していないのであるが、例えば、引越の積み替えを行う際に規制があると聞いており、それが円滑なリユースを阻害しているとのことである。

【三橋座長】

- ・ 今後の分科会等においても宅配リユース・ネットオークションに関連した事項は検討事項となるだろう。
- ・ 既存の業界からも色々な感想もあると思うが、今日は時間の制約があって、なかなかご意見がお伺い出来ずに申し訳ない。多様なリユース促進のための取組が増えてきており、望ましいことなのではないかと考えている。

(4) 閉会

(以上)